

「アユがおらんくても、
わしは困らんき～」

「アユ?知らんき～」

市民とともに物部川を
どう創っていくか?

2. “協働型社会”への招待

- みんなの「こまった」合意形成問題とは？
- NPOに期待される役割とは？

大分県企画振興部企画調整課
二宮 仁志

合意形成の「場」(現場状況)



交渉としての「合意形成」: 合意形成の2つの側面

1. 術・技巧(Art): 教訓(成功・失敗事例)、ノウハウ等(交渉術)

↓(体系化)

原則立脚型交渉の実現可能性を検討

<限界>

客観的基準は、話し合いによる合意に基づくもの

↓
当事者同士では、客観的基準の導出が困難

↓
第三者の支援(ファシリテーション、メディエーション)

昨
年
の
発
表

2. 科学(Science): 認知社会心理学、ゲーム理論等(交渉分析)

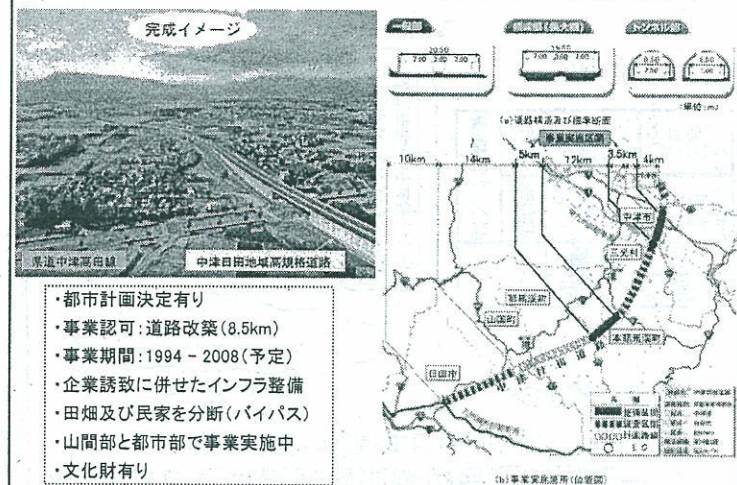
ドラマ理論を適用した合意形成プロセスを分析
問題やジレンマ発生メカニズム

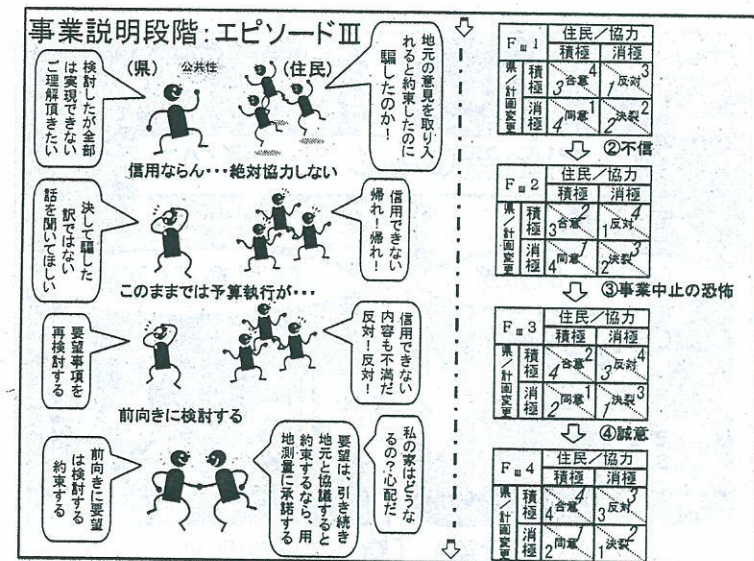
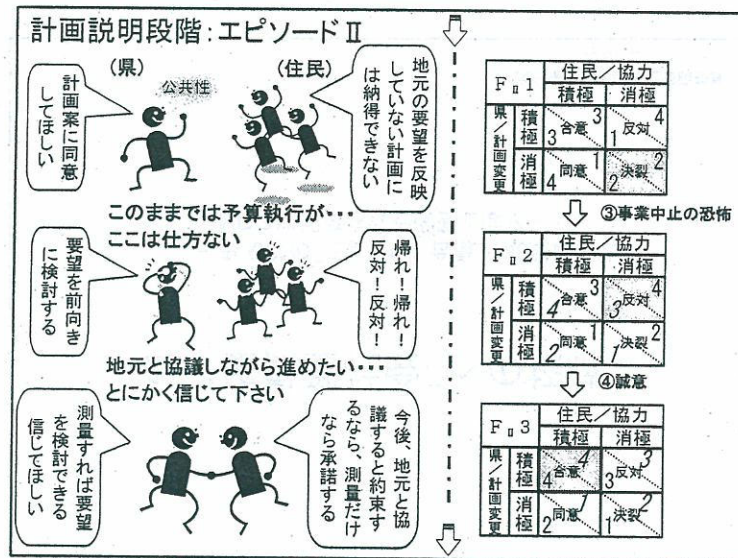
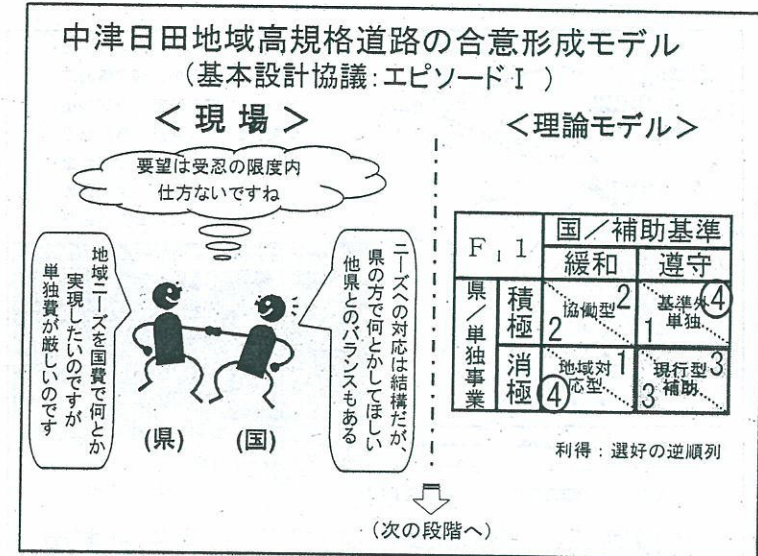
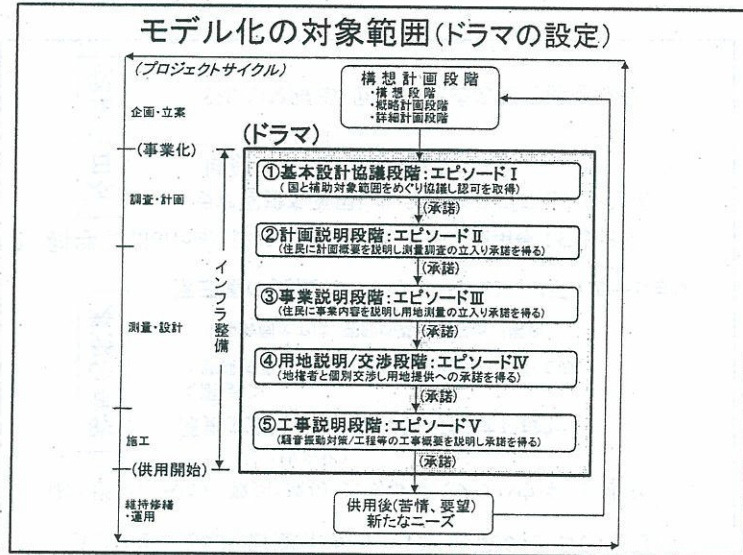
↓

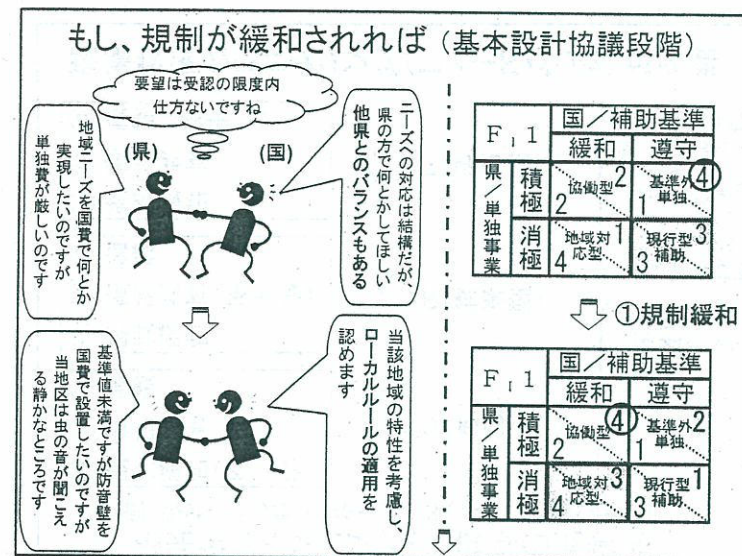
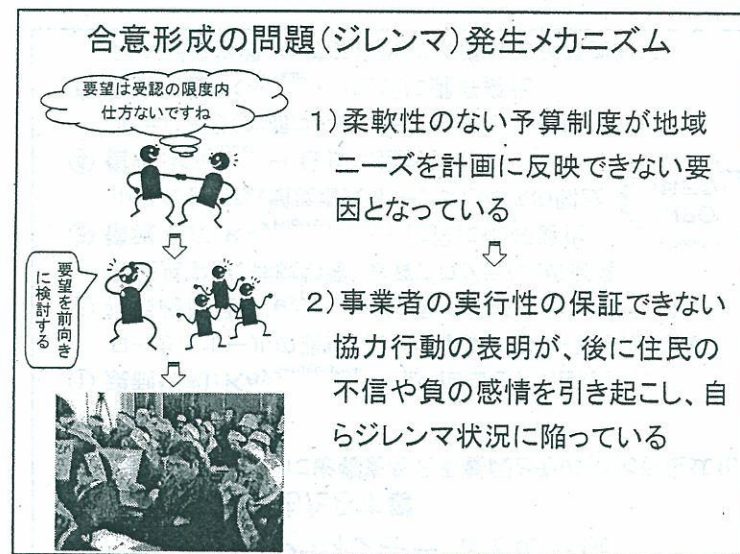
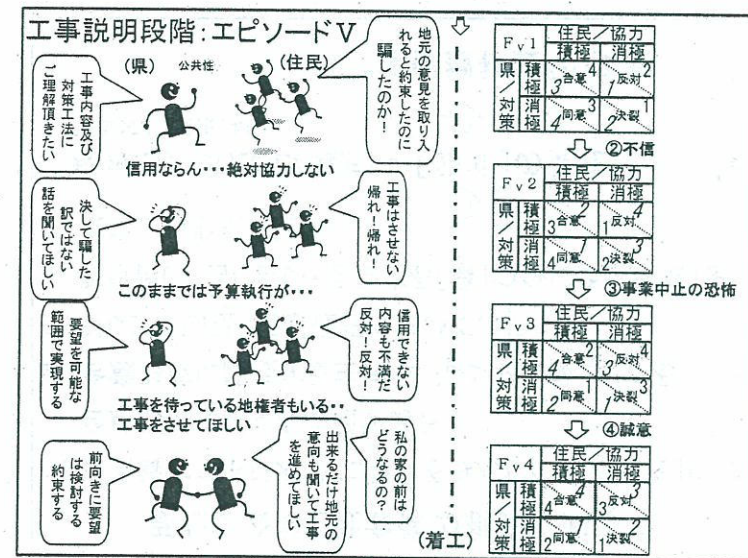
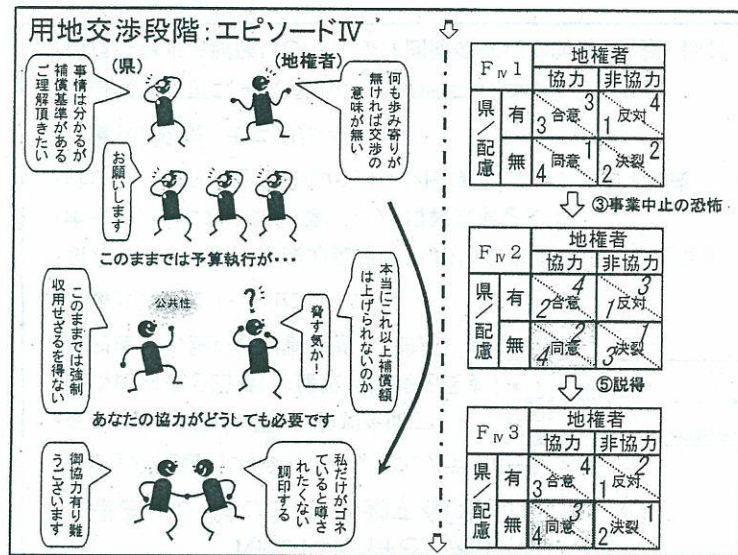
ジレンマ脱却・回避のための処方箋を得る

本
日
の
発
表

中津日田地域高規格道路整備事業の計画概要







“インセンティブキー”とその一例

シナリオに変化をもたらす鍵:

主体の選好(行動)に影響を与える要因とその変化を定式化

(具体例)

- ① 規制緩和: $Key_{deregulation}$ → 国(担当官)に選好変化
ローカルルール適用、交付金事業への移行、税源移譲
- ② 社会的規範: Key_{public} → 住民に選好変化(公共意識)
現場見学会、体験学習、教育プログラムとの連携
- ③ 情報共有: $Key_{information}$ → 住民に選好変化
小集会を実施(頻度増)、オープンハウスの開設
- ④ 信頼: Key_{trust} → 住民に選好変化
地元に通う(対面コミュニケーション)、約束を文書化
- ⑤ 救済制度: Key_{relief} → 住民に選好変化
税制優遇措置、地域支援事業(公民館の改築費助成)

NPO
(第三者)

不完全なインセンティブ供与の危険性

例: 現状シナリオ+(キー①、③、④)→協働シナリオ

① 規制緩和(不十分)

③ 情報共有

④ 信頼

⇒ 13(押切り型)

① 規制緩和

③ 情報共有(不十分)

④ 信頼

⇒ 8(従来型)

① 規制緩和

③ 情報共有

④ 信頼(不十分)

⇒ 7(呼応型)

意図しない
結果に!
(こんなはず
では!?)

警鐘
(第三者)

現場状況のモニタリング(フィードバック)が必要

NPOに期待される役割

聴き合い・話し合い・活動する「場」の形成を支援

1. 「場」の運営(ファシリテーション、メディエーション)

- ・関与主体(無関心層)の参加を促す
- ・感情的対立を回避し、建設的議論を促す
- ・反対者への説明と利害調整(代替案)等

当委員会のアンケート調査(都道府県)
<NPOへの期待(役割)>
・行政と住民との調整(ファシリテーター) 70%
・専門的な助言(アドバイザー) 83%
・企画、設計の協働(パートナー) 64%

2. 「場」の変化(インセンティブ)

- ・現場見学、体験学習会の実施等により、公共意識の変化を促す
- ・オープンハウスの開設等により、情報共有を促す
- ・話し合いの内容を記録(コミットメント)することで、信頼を醸成

3. 「場」の監視(モニタリング)

- ・関与主体(特に、事業者)の行動のモニタリングとその公表
- ・論点や争点を明確にし、ジレンマ回避の適切な助言、抗議、勧告

新たな公共と社会像の創出に向けて

1. 社会資本マネジメントに関わるみんなの「こまった」には合意形成に関する問題がある
2. 合意形成に関与する主体はジレンマに陥っている
3. ジレンマ回避・克服過程において、NPOは、

聴き合い・話し合い・活動する「場」づくり(合意形成)を支援する役割を担う



私(みんな)の「だいたいな場所」=「公共」の発生!

「ハンズオン埼玉」より



“協働型社会”の実現